

国土づくりへの新しい課題*

Changes in National Land Planning and Issues for New Era*

森地 茂**

By Shigeru MORICHI

1. はじめに

わが国の国土計画は、1998年3月に策定された「21世紀の国土のランドデザイン」で、大きな方向転換を遂げた。それは、過去に4回策定された国土計画が所得格差是正を目的としていたのに対して、新たな国土計画が「地域ブロック単位で国際化を睨みながら生活質の向上を図る」とした点である。この変化は、1999年の第2次地方分権推進計画とも連動して、2002年11月の国土審議会基本政策部会報告の中で「二層の広域圏」として明示された。「二層の広域圏」とは、地域ブロックと人口20-30万人程度の生活圏域である。ここでの問題は、地域ブロックの国際化と、生活圏域に求める生活質の向上である。特に、後者では、生活圏域の多様性をいかに計測し、全国一律ではない生活質の向上策が必要になっている。

本スペシャル・セッションでは、地域ブロックとそれを構成する生活圏域の形成に資する総合的な交通体系のあり方を中心にして、国土づくりへの新しい課題を議論する。

2. セッションの構成と特徴

討論は大きく2つのテーマに分けて行う。それは、「広域ブロックの国際化」と「生活圏域とそれに含まれない地域の対応」である。

広域ブロックの国際化では、国際都市としての魅力を備えた広域ブロック中心都市の構築（魅力とは、自立と依存、東アジア、誰が何を行なうのか）と、国際交流を支えるモビリティ（ゲートウェイ機能、周辺地域の高度化とブロック内交通）について討議する。

生活圏域とそれに含まれない地域の対応では、人口減少下の秩序立った生活圏域のコンパクト化（生活質

向上と機能配置、公共交通機関の充実など）と、地域の実情を踏まえた集落経営（森に戻す、観光産業振興で復活、キラリと光る地域資源の発掘、生活に密着したモビリティの確保など）について討議する。

セッションの特徴は、当該テーマに関わる行政学・地域経済学・都市経済学・農業経済学・国土政策学において第一線で活躍している研究者と行政担当者をお招きして、学際的な視点から討論することである。

岩崎 美紀子（筑波大学大学院）

上田 孝行（東京工業大学大学院）

黒川 和美（法政大学）

生源寺 眞一（東京大学大学院）

山崎 朗（九州大学大学院）

戸谷 有一（国土交通省政策調整官室）

討論会をとおして以下の内容が深まることを期待したい。

1. わが国で議論されている国土づくりの新たな試みは、EUの地域政策やドイツの空間整備制度などの新たな動きとも一致しており、世界の先進国に共通の意味を持っていること
2. 共通性とは「グローバル化の中で地域の相対的自立性が求められていること」、「社会構造が多様化して伝統的な画一的規範が成り立たなくなったこと」、「国の一元管理による行政システムが機能しなくなり分散的・地域的な協力や合意形成による柔軟な行政実施形態が求められていること」
3. 地方部の生活質を議論する上で、欧州の社会保障の考え方と米国の市場主義の考え方は明らかに異なっており、欧米と違う日本的価値観を打ち出すことも含めた議論と国民の理解が必要なこと

なお、本セッションは、上田孝行（東京工大）セッションオ・ガナイザによるSS「交通と空間経済におけるGlobalとLocal」と佐藤俊通（財、国土技術研究センター）セッションオ・ガナイザによる企画論文セッション「二層の広域圏と総合交通施策」との合同セッションとして行なわれたものである。

*keywords：国土計画、二層の広域圏、地域の個性

**正員、工博、政策研究大学院大学、（新宿区若松 2-2）